

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 1月21日

【評価実施概要】

事業所番号	2073400679		
法人名	株式会社ライフ・パートナー		
事業所名	グループホーム ケアプラザみつえ		
所在地	長野県上水内郡飯綱町牟礼2519番地1 (電話) 026-253-8617		
評価機関名	コスモプランニング株式会社		
所在地	長野市松岡1丁目35番5号		
訪問調査日	平成21年1月16日	評価確定日	平成21年2月2日

【情報提供票より】 (平成20年12月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 12月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 6人, 非常勤 14人, 常勤換算13.5人	

(2) 建物概要

建物構造	木造準耐火 造り		
	2 階建ての	1 ~ 2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	32,000円~42,000円	その他の経費(月額)	11,000 円
敷 金	有 ( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,100 円

(4) 利用者の概要 (平成20年12月 1日現在 )

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護 1	3	要介護 2	4		
要介護 3	5	要介護 4	4		
要介護 5	2	要支援 2	0		
年齢	平均 87.1 歳	最低	76 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・公立飯綱病院・ながさき医院・丸山医院・田村歯科医院・朝日病院
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

飯綱山や菅平、里山が眼前に開ける素晴らしい眺望の高台に当ホームがある。建設当初縄文土器が出土し、太古の人々が住んでいた土地にロマンを感じる。平成20年12月にSLがホームの下の信越線を走った時には全国のSLマニアが訪れ、多くの方がホームの庭先で写真を撮っていた。そのSLを描き、ホームで飾って欲しいと持ち込まれた絵が共有空間を飾っている。防災訓練や運営推進会議、行事等には地元の住民や行政関係者が関わるなどホームはしっかりと地域に根づいている。「明るく温かな雰囲気、気持ちよく、楽しく生活出来るように」との運営者の思いを全職員で実践している。ホームは開設満3年を経て、更に温かく、ぬくもりのある、明るいホームを目指して全員一丸となって邁進している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後取組、改善状況 (関連項目: 外部4) やむを得ず施設する場合には家族に説明を行い、入居者の希望に沿って外出出来るよう支援を行っている。外出に関しては季節感を感じて貰うため、例年四季折々全員で遠出する機会を作っている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4) 全職員で話し合い、運営責任者と管理者がまとめ、全体会議で職員に伝え確認している。自己評価を行うことで新しい課題が浮かび上がり、全員で改善に取り組んでいる。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6) 2ヶ月に一度行われている。メンバーは関係二町から保健福祉課職員・住民福祉課職員・地域包括支援センター職員、地元から区長・民生委員、ホームから利用者・家族が参加し行われている。ホーム側から毎回議題を出し検討や相談するなど、有意義な会議が行われている。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8) 家族会は年2回開かれており、家族全員の参加に加え日頃お世話になっている隣組や業者の方達も交え総勢70名余が食事をしながら親睦を深めている。年二回家族の集まる機会を利用し聞き取り調査を行い、要望や意見を抽出し、運営に活かしている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3) ホームの行事には地区の住民を招待しボランティアの催し物を一緒に楽しんでいる。また地域で行われる催し物には入居者も出掛けていき住民と交流するなど積極的に関わっている。保育園児との交流がある。今後については小学生や中学生・高校生との交流も広げていく予定である。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を職員全員が認識している。事業所と地域との親密な関係強化を理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議やミーティング等機会ある毎に理念に触れ話し合うなど日々取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には区費を納めている。2ヶ月に1回開催される地元のお茶会で地域ぐるみのボランティア活動（サロン・えんがわ）に招待されたり、地域のお祭りや保育園の運動会に招待を受け参加している。老人会の会員が自分たちで作った野菜やほうきを持参し交流している。ボランティアによる手品や初釜にはお茶の先生とお弟子の子どもからお茶を頂くなど地域との交流の機会が多い。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員でサービスの確認や見直しをしながら意見を出し合い、運営者と施設長がまとめ全体会議で確認している。自己評価から気づき、現在、更に各家族との交流する機会を増やそうと具体的に取り組んでいる。		

グループホームケアプラザみつえ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では入居者に関する内容、ホームの活動内容、その他の報告以外に検討事項などの資料を用意し、有意義な話し合いが行われている。会議での意見や助言はサービス向上に活かされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	「認知症地域支援体制構築等推進事業」の県指定を受けた飯綱町の会議や研修会に委員として参画している。事業の冊子作りや町のふれあい新聞のメンバーとしても参加している。町ぐるみで認知症の勉強会を行っていることもあり、行政とは積極的に情報交換等を行っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月発行する「みつえだより」にはコメントコーナーがあり職員は担当している入居者の日々の様子やエピソードなどを手書きで報告している。家族からは様子が良く分かれると喜ばれている。来訪の折には介護計画など書類の確認をしてもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪所時には意見・不満・苦情など言い易い雰囲気作りをしている。年二回ある家族会ではアンケート調査を行い意見や要望を伺っている。出された要望などは全体会議で話し合い運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は固定しないで2ユニット全体でなじみの関係を作っている。職員の交代による入居者の不安やダメージは今までに見られていない。		

グループホームケアプラザみつえ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者及び管理者は職員を育て質の高いサービスを提供できるよう積極的に取り組んでいる。外部研修はそれぞれの役割の中で認知症研修を始めいろいろな研修会や学習会に参加し、資格のある方は継続研修に出席し知識・技術を深めている。内部研修も全体会議の中で行っている。資格取得も奨励され職員は意欲的に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のネットワークに参加し交流を持っている。研修や学習会で情報を交換したり、包括支援センター主催のケア会議にも出席し地域のサービスの質の向上のために積極的に関わっている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム入居希望者には施設長が自宅を訪問することから始め、本人や家族にはホームを見学してもらい雰囲気に馴染んでいただくから入居に到っている。ホームへの生活にスムーズに馴染めるよう家族とも相談しながら対応している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は苦しい時代を生きてきた入居者を人生の先輩として敬い、料理の知恵や昔のやり方等を教わり、一緒に食事の用意などを行っている。介助も本人の意思を確認しながら明るく対応するように心掛けている。		

グループホームケアプラザみつえ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から意向を聞いたり、生活暦の中から把握した本人の思いや毎日の生活の様子を見て今何をやりたいかを推察し、本人本位に取り組んでいる。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向を大切にし、家族の思いや意見・要望を聞いて職員全員で検討し介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	全体会議の中で職員全員が参加し見直しをしている。ケアプラン実行表を毎日記録し、状態に変化が見られた時にはその都度関係者が話し合いを持ち新たな介護計画を作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	多機能を活かしてデイサービスやショートステイを行い地域の要望に応じている。通院や買い物などには柔軟に対応している。		



グループホームケアプラザみつえ


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時には適切な医療が受けられる協力医療機関のあることを本人・家族に入居時説明している。入居前のかかりつけ医については変更していない。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に関しては状況を見ながら家族等と話し合い方針を共有している。看取りに関しては家族は当然のことと考えており、最期については「その時はその時だよ」との家族の声もある。ホームが対応できる最大のケアについて説明し家族と連携体制をとっている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の誇りを大切にし、穏やかな言葉かけや明るい暖かな雰囲気の中で支援している。個人情報の管理についても職員間で徹底されており、個人情報提供記録簿があり秘密保持が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の予定はあるが体調や本人の気持ちを尊重し、各入居者に合わせた個別性のある柔軟なケアを行っている。		

グループホームケアプラザみつえ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みのものを相談しながらメニューを決めている。それぞれの入居者の能力を活かし、一緒に作り、一緒に食事をし、一緒にかたづけしている。特に料理の味付けについては入居者をお願いしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴可能であるが概ね1日おきに入浴している。お風呂は広く、職員が付き添って入ったり、入居者二人で入ったり、状態により1人で入浴する方もいる。お風呂は毎日沸かし2ユニットで利用している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活の中で培った趣味を活かし裁縫箱を身近に置き、何時でも裁縫ができるようにしている入居者がいる。他の入居者のボタンを気軽につけては喜ばれており生甲斐に繋がっている様子を伺えた。各入居者は一人ひとりのペースで生活を楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	冬は寒さや凍った庭先での転倒などの心配もあるが、気候が良くなると散歩や畑・庭に出て季節を感じたり、近所の方と挨拶を交わしている。車椅子の入居者もホーム周辺を散歩するが冬場は室内で過ごす日が多い。四季折々、新緑、七夕飾り見学など全員で外出し、自然や文化の香りを満喫している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかける弊害を理解している。止むを得ず玄関を施錠することもあるが家族等に説明し了承を得ている。		

グループホームケアプラザみつえ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画に基づき年2回の避難訓練を実施しているが1回は地域の人も参加している。マニュアルに基づいて2ヶ月に1度施設内で自主避難訓練を行っている。訓練時には通報の仕方や消火器の取り扱い方なども同時に学んでいる。地域との防災協定も結ばれている。		
m					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表は職員が一週間毎交替で作成している。職員に栄養士と調理師がいることもあり、一人ひとりが食べやすく、栄養バランスや色どりにも配慮がされた質の良い食事が提供されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を入ると欄の花などが飾られ、廊下にはボランティアとともに写った入居者の楽しい写真が飾られている。台所に続く食堂も広く、窓外に周囲の山々が見える。木製の食卓や椅子が備え付けられ、落ち着いた山荘風の雰囲気を出している。浴室は広く、笑顔でゆったり入浴する姿が想像できる。ホーム全体が明るく暖かい空気に満ちている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはトイレ・洗面所が備え付けられており、広い大きな窓からは里山も見え、陽の光が降り注ぎ明るい。昔のアルバムや家族写真、趣味の裁縫道具など一人ひとりの好みに合わせた居室作りがされている。		

※  は、重点項目。